

小学校 第5学年 社会科学学習指導案

北海道別海町立別海中央小学校
教諭 水口 拓真

単元名 環境をともに守る (5時間)

単元の
ねらい

- 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解するとともに、写真や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 公害防止の取り組みの働きを多角的に考える力、環境保全に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 国土の環境と国民生活との関連について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

本時の
ねらい

福岡県北九州市の空や海の変化の様子や、その変化が人々にもたらした影響に着目して、生活環境を守るための取り組みについての学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。(第1時)

指導時期 2月下旬～3月上旬






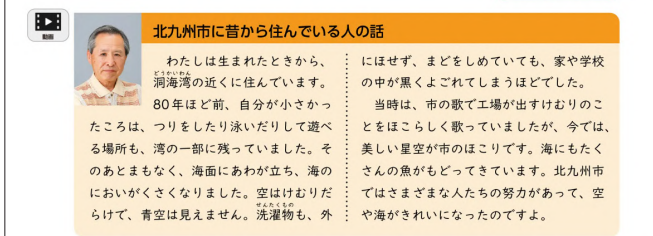
指導者用デジタル教科書(教材)活用の意図・目的

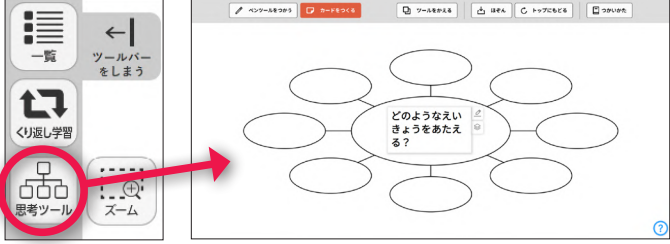

導入場面では、主に写真資料やグラフ資料を読み取ってその情報を共有し、本時の問いが生まれるように展開する。その際、以前は資料をスキャナーで読み込み、A3判2枚に拡大印刷してこれを貼り合わせていた。ほぼ毎時間である。しかし「指導者用デジタル教科書(教材)」を活用することで、こういった負担を減らすことができ、かつ「比較」機能で視点を容易に焦点化することができる。

また、「動画」機能も大いに活用したい。本時だけでも「導入動画」、そして児童が調べ活動で活用できる「動画」の、計2つがコンテンツとして位置付けている。この効果は大きい。以前は授業準備の段階で主に「NHK for School」で本時のねらいに即した動画クリップを検索するといったプロセスを経て動画資料を準備していたが、「指導者用デジタル教科書(教材)」にはもちろん内容にマッチした動画が位置付けている。授業準備や教材研究を効率的に進めるうえで特筆すべき機能の一つである。

本時(第1時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 「指導者用デジタル教科書(教材)」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 「資料ア・イ」を比較しながら、「気づき」や「見つけたこと」を共有して、学習問題につながる情報を集める。 <ul style="list-style-type: none"> ■：資料を見て、見つけたこと、気づいたこと、考えたことをあげましょう。 ◎：海が黄色くなっている。 ◎：えんとつから赤い煙がたくさん出ている。 ◎：現在は海や空が青くてきれい。 ● 教師が提示した「共有したい情報」から、さらに学習問題につながる情報を積み上げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・資料は1960年と2015年の福岡県北九州市の比較であること。 ・北九州市は1987年に環境庁(当時)から「星空の街」に選ばれたこと。 ● 「導入動画」を視聴し、本時の問いをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「操作」「比べる」機能でモニターに拡大表示し、資料を比較する。   ● 「導入動画」を視聴する。 
<p>空や海の変化は、人々の暮らしにどのようなえいきょうをあたえるのだろう。</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自で、どのような影響を与えるのかを、「写真工・オ」や「北九州市に昔から住んでいる人の話」を活用しながら調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「資料エ・オ」や「北九州市に昔から住んでいる人の話」を確認する。   <p>当時の小学校では…</p> 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 「思考ツール」を活用して因果関係を意識しながら構造的にまとめる。 ● 「動画」（「1960年ごろの北九州市の様子」）を視聴し、深める。 ● 引き続き、「思考ツール」を活用して構造的にまとめる。 ● クラス全体で、学習支援ソフトウェアの共有機能等を利用して「思考ツール」を共有し、他の人の考えを確認する。その後、教師用端末に提出する。 ● みんなでひとつの学習課題をつくるために、考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「思考ツール」機能を活用する。 ツールバー「思考ツール」→「ウェビング」→「カードをつくる」機能で本時用に作成したものを、印刷して配布したり、児童用端末に共有・投稿したりする。  <ul style="list-style-type: none"> ● 「動画」を視聴する。 
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 次時につながる「情報」と「問い」を共有し、疑問や問題意識をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ たった27年間できれいになったのはどうしてだろう。 ・ どうやって「美しい星空」の街になったのだろう。 <div data-bbox="245 1462 1465 1541" style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>環境を改善するために、北九州市の人々はどのような取り組みをしてきたのだろう。</p> </div>	

指導者用デジタル教科書(教材)を活用したことで得られた効果

本時で活用する「指導者用デジタル教科書(教材)」の機能は、主に以下の4つである。

- 写真資料の「拡大」「比べる」機能
- 「導入動画」視聴
- 「思考ツール」の活用
- 児童が学びを深めるうえで視聴する「動画」

「指導者用デジタル教科書(教材)」を活用することで得られる効果は、多面的、多角的に見いだせるだろう。指導者側、学習者側、そして教材研究時、具体的授業準備時、授業展開時等である。

ここでは「指導者側」の「教材研究時」への効果に触れたい。

教材研究段階で、教科書を開く。経験を積むと、見開き2ページで左上から斜めに右下までを見通し、〈導入→問い→展開→まとめ〉の流れを見通しながら、それぞれの時系列で活用する教科書資料と追加するプラスアルファの資料を構想していく。不慣れな若手の教員は、それが難しい。流れはもちろん、教科書資料や本文を「いつ」「どのように」活用するのか(提示、児童に活用させるのか)がイメージできないのである。

そんな成長途中の若手教員が、教材研究のために「指導者用デジタル教科書(教材)」を開いたとしよう。写真資料をクリックすると「拡大」され、「比べる」機能が目に入る。そうか、拡大して、比べさせればよいのか。次にこの時間の問いの前には「導入動画」アイコン。問いの前に見せればよいのか。教科書見開き右側に視線は進む。そこには各種資料の拡大機能とさらなる動画アイコン……。そしてツールバーに目を向けるとそこには「思考ツール」のアイコンが。どうやら児童の調べ活動に使えるぞ……。このように、大きく言うと、これら「指導者用デジタル教科書(教材)」の機能を追ってだけで、授業時に教師が起こすべき「アクション」が把握できるのである。写真資料の拡大と比較→導入動画視聴→各種資料の拡大と思考ツールの活用→学びを深める動画視聴。これらの資料と「アクション」を授業時系列に置き換えてみると、多少乱暴ではあるが、〈導入→本時の問い→展開(個人思考とグループでの共有)→まとめ〉となる。

社会科の授業づくりが苦手、という教員は少なくない。とりあえず教科書を開いたものの、教材研究や授業準備が一向に進まないときは、デジタル教科書の各種機能を左上から右下へ順次展開してみることをお勧めする。

それだけで、大まかな流れと授業時に起こすべき「アクション」の全体像が把握できるのである。